

Kansai Economic Insight Monthly

2017/6/27

Vol.50 May/June

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第4週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・James Brady・Cao Thi Khanh Nguyet・生田祐介(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	9
主要月次統計	13
Release Calendar	14

要旨

-景気は足下改善が続くも、先行き悪化の兆し*-

- ✓ 4月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月から上昇し、1-3月平均と比べても上昇した。これは、4-6月期の最初の月としては好調な結果であり、生産は持ち直しの動きで推移している。
- ✓ 5月の輸出は4カ月連続の前年比増加、輸入も3カ月連続で同増加。輸入の伸びが輸出の伸びを上回ったものの、貿易収支は4カ月連続の黒字となった。
- ✓ 5月の消費者態度指数は3カ月ぶりに悪化したものの、景気ウォッチャー現状判断DIは5カ月ぶりの改善。猛暑の予想による季節商品の売上増加への期待から、先行き見通しは2カ月連続で改善した。
- ✓ 3月の関西2府4県の現金給与総額は2カ月ぶりの増加、「関西コア」賃金指数も3カ月ぶりの改善となったものの、今後賃金が増加していくかについては注視が必要である。
- ✓ 4月の大型小売店販売額は9カ月ぶりの前年比プラス。気温が低めのため春物衣料が不振であったが、訪日外国人向け販売が好調であった。
- ✓ 4月の新設住宅着工戸数は3カ月連続の前年比減少。
- ✓ 4月の有効求人倍率は前月比上昇し、3カ月連続の改善。1974年6月以来の高水準だが、有効求職者数の減少が全体を押し上げた。新規求人倍率は2カ月ぶりの上昇。完全失業率は3カ月ぶりの改善で、雇用環境は引き続き好調である。
- ✓ 4-5月平均の公共工事請負金額(季節調整値)を1-3月平均と比較すると、関西、全国ともに増加しており、補正予算の効果は着実に出ていとみられる。
- ✓ 5月の関空への訪日外客数は56万4,070人と3カ月連続で増加した。訪日外客数は引き続き上昇トレンドが見られる。
- ✓ 中国5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は前月比横ばい。鉱工業生産は前年同月比+6.5%と前月と同水準。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。
関西全体のCI、試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

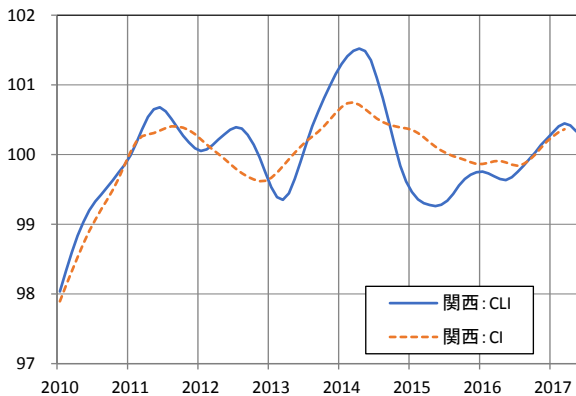
	2016年								2017年				
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
生産	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗
センチメント	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗
消費	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	
住宅	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	
雇用	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗
中国	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗

(*トレンドの判断基準)

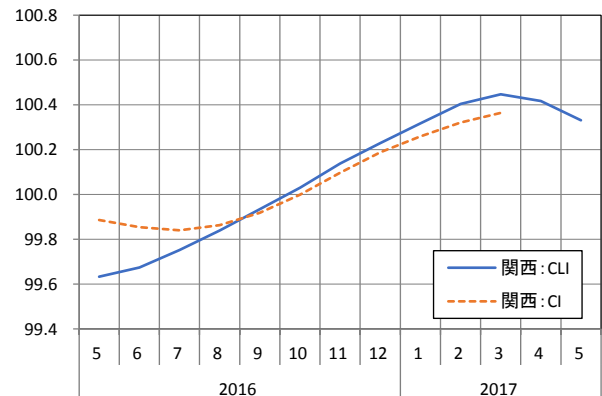
- ・ **生産**: 近畿経済産業局『近畿地域広工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月～2017年5月まで)



直近1年間の推移(2016年5月～2017年5月まで)



【鉱工業生産動向】

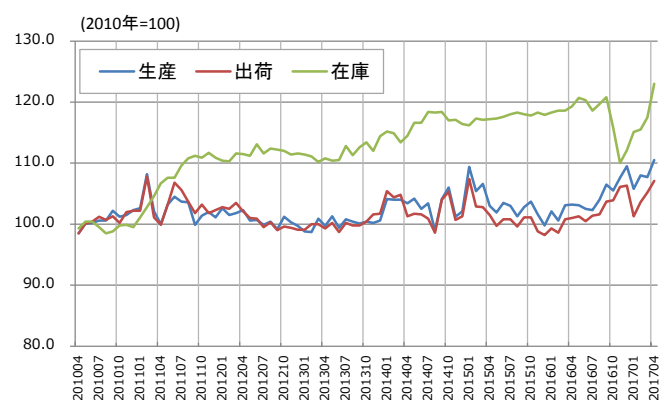
(1) 関西の生産動向

関西の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010年=100)によれば、4月の生産は110.5で、前月比+2.6%と2カ月ぶりの上昇。出荷は107.1で同+1.8%と3カ月連続の上昇。在庫は123.0で同+4.7%と5カ月連続の上昇。なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2010年=100)は106.3で、4月は前月比+1.6%と2カ月ぶりに上昇した。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+4.2%、4カ月ぶり)、電気機械(同+7.3%、2カ月連続)、情報通信機械(同+18.7%、2カ月ぶり)等が増産となった。一方、金属製品(同-5.3%、2カ月連続)、プラスチック製品(同-2.8%、2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同-2.0%、2カ月連続)等が減産となった。

結果、4月実績(生産)は1-3月平均比+3.1%上昇した。4-6月期(1-3月期：前期比-0.3%)の最初の月としては好調な結果である。近畿経済産業局は「総じてみれば、生産は持ち直しの動きで推移している」と判断している。

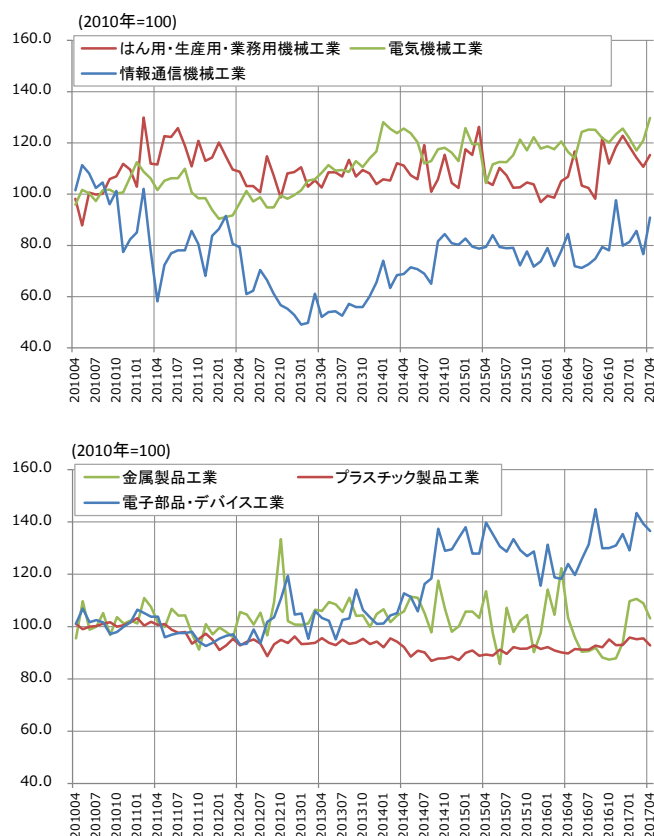
関西の鉱工業生産動向の推移(2017年4月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

関西の業種別生産指数の推移(2017年4月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

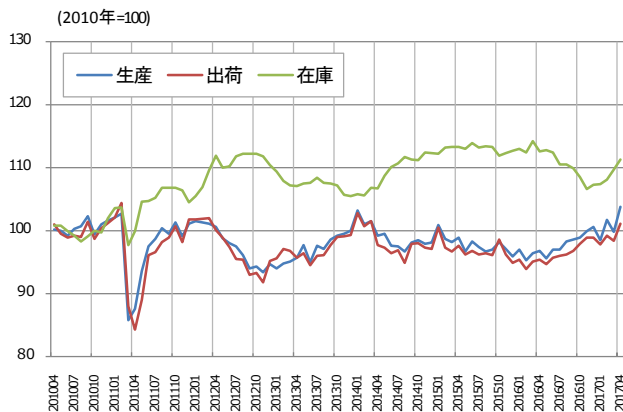
(2) 全国の生産動向

4月全国の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010年=100)の動向を見ると、生産は103.8となり前月比+4.0%と2カ月ぶりの上昇。出荷は101.1で同+2.7%と2カ月ぶりの上昇。在庫は111.3で同+1.5%と5カ月連続で上昇。

業種別にみると、輸送機械(前月比+10.8%)、はん用・生産用・業務用機械(同+8.7%)、電子部品・デバイス(同+5.2%)等が増産となった。一方、情報通信機械(同-1.3%)、パルプ・紙・紙加工品(同-1.0%)、石油・石炭製品(同-1.1%)等が減産となった。

製造工業生産予測調査によると、5月は前月比-2.5%の減産、6月は同+1.8%と増産が予測されている。予測が実現すれば、4-6月期の生産は前期比+2.7%となり、前期より加速しよう。

全国の鉱工業指数の推移(2017年4月まで)



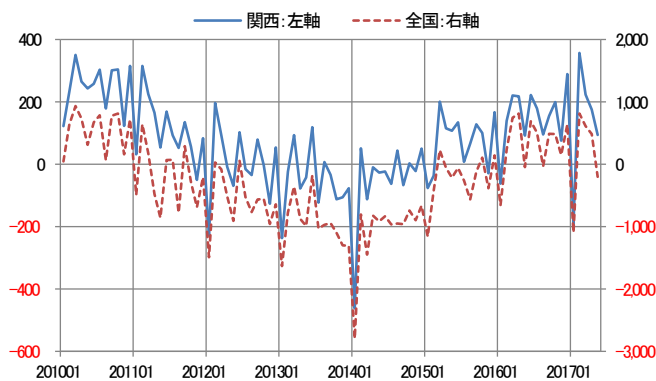
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西5月の貿易収支は+934億円と4カ月連続の黒字となった。前年同月(+918億円)と比べて+1.8%と黒字幅は2カ月ぶりに拡大した。一方、全国の貿易収支(速報値)は-2,034億円となり、4カ月ぶりの赤字であった。前年同月(-473億円)と比べて+329.6%と赤字幅は拡大した。

関西・全国の貿易収支の推移(10億円, 2017年5月まで)



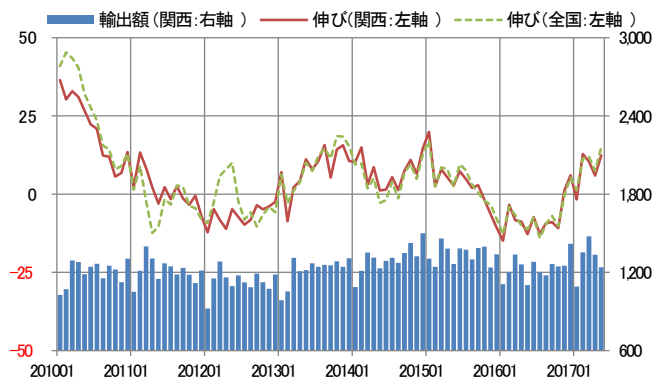
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西5月の輸出額(速報値)は1兆2,398億円で前年同月比+12.4%と4カ月連続の増加。財別に見れば、科学光学機器、鉄鋼等が増加した。

全国5月の輸出額(速報値)は5兆8,514億円、前年同月比+14.9%と6カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、鉄鋼、船舶等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(10億円, 前年同月比, 2017年5月まで)



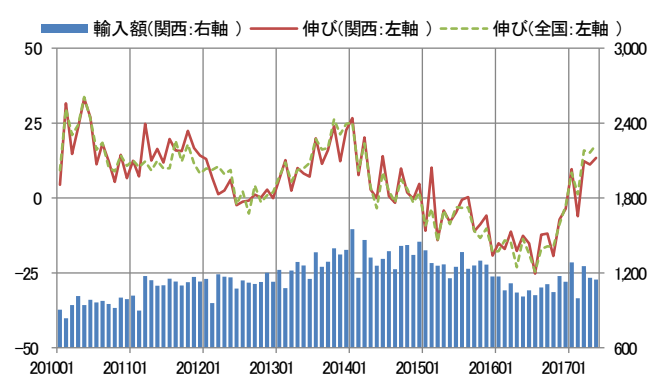
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西5月の輸入額(速報値)は1兆1,463億円、伸びは前年同月比+13.4%と3カ月連続の増加。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、非鉄金属等が増加した。

全国5月の輸入額(速報値)は6兆547億円、前年同月比+17.8%と5カ月連続の増加。財別に見れば、液化天然ガス、石炭、原油等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(10億円, 前年同月比, 2017年5月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西5月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)貿易収支は+2,191億円と4カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+38.1%拡大した。輸出は4カ月連続の増加

(同+12.8%)。財別に見れば、科学光学機器、鉄鋼等が増加した。一方、輸入は3カ月連続の増加(同+6.0%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、石油製品等が増加した。

うち、対中貿易収支は-521億円と3カ月連続の赤字となった。輸出は7カ月連続の増加(前年同月比+22.0%)。財別に見ると、科学光学機器、半導体等電子部品等が増加した。輸入は3カ月連続の増加(同+9.1%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、衣類及び同附属品等が増加した。

対米貿易収支は+526億円の黒字となり、伸びは3カ月ぶりに増加した(前年同月比+31.1%)。うち、輸出は2カ月ぶりの増加(同+21.7%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械、遊戯用具等が増加した。輸入は6カ月連続の増加(同+17.8%)。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、半導体等製造装置等が増加した。

対EU貿易収支は-182億円と2カ月連続の赤字となった。輸出は2カ月ぶりの増加(前年同月比+7.7%)。財別に見れば、科学光学機器、遊戯用具等が増加した。輸入は3カ月連続の増加(同+17.6%)。財別に見れば、たばこ、医薬品等が増加した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

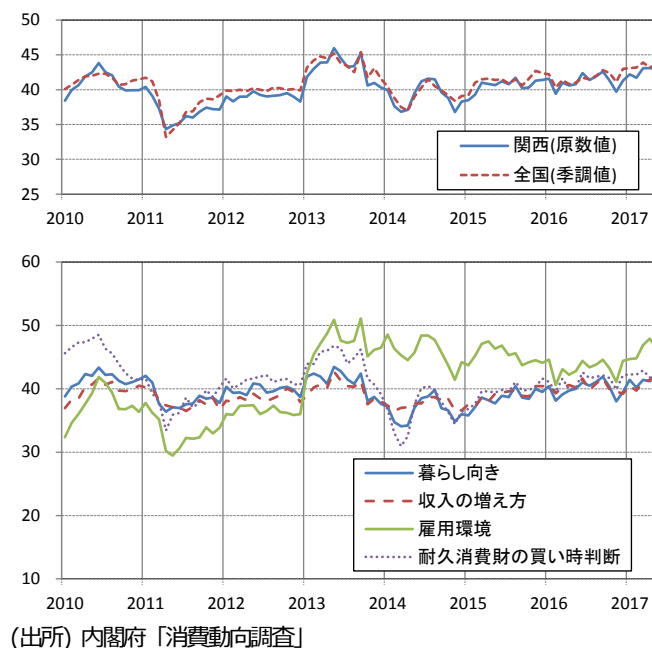
関西の5月の消費者態度指数(原数値)は43.0と前月比-0.1ポイント小幅低下し、3カ月ぶりの悪化。一方、全国(季節調整値)は同+0.4ポイント上昇し43.6となり、2カ月ぶりの改善であった。

関西の同指数構成項目を見ると、「収入の増え方」が前月比+1.0ポイント、「暮らし向き」も同+0.8ポイントそれぞれ上昇した。一方、「雇用環境」は同-1.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」も同-0.5ポイント低下していた。

一方、全国の同指数の構成項目を見ると、耐久消費財の買い時判断を除く3指標が前月から改善した。内訳をみると、「暮らし向き」が前月比+0.7ポイント、「収入の増え方」が同+0.6ポイント、「雇用環境」は同+0.1ポイントそれぞれ

れ上昇した。一方、「耐久消費財の買い時判断」は同横ばいであった。株価の上昇により、消費者の先行き不安感が幾分改善したと見られる。内閣府は基調判断を「持ち直している」として前月から据え置いた。

消費者態度指数(2017年5月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

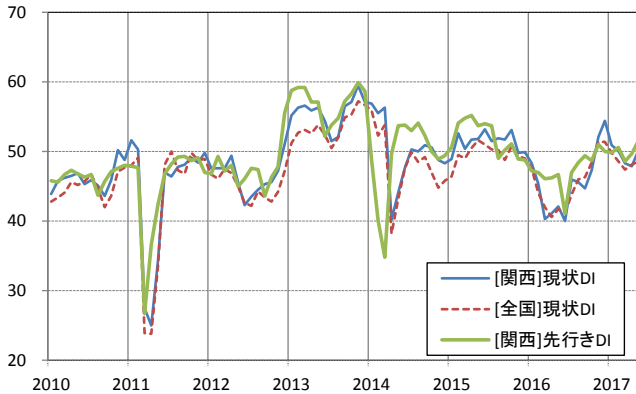
関西の5月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は50.1と前月比+2.2ポイント上昇し、5カ月ぶりの改善。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を3カ月ぶりに上回った。背景として、足下では消費者の節約志向は続いているものの、インバウンド関連消費が好調だったこと、GWの日並びが良く、天候にも恵まれたため人の移動が活発であったことなどが上昇に寄与したとみられる。

一方、全国の同指数は48.6で同+0.5ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。家計動向関連は横ばいであったものの、企業動向関連で景況感が改善したことによる。

また、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では51.5と前月比+1.8ポイント上昇し、2カ月連続の改善。海外情勢を不安視するコメントは依然として多いものの、猛暑の予想による季節商品の売上増加への期待から、先行きは改善が見込

まれている。全国は49.6と同+0.8ポイント上昇し、こちら
も2カ月連続の改善であった。

景気ウォッチャー調査(2017年5月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費・住宅】

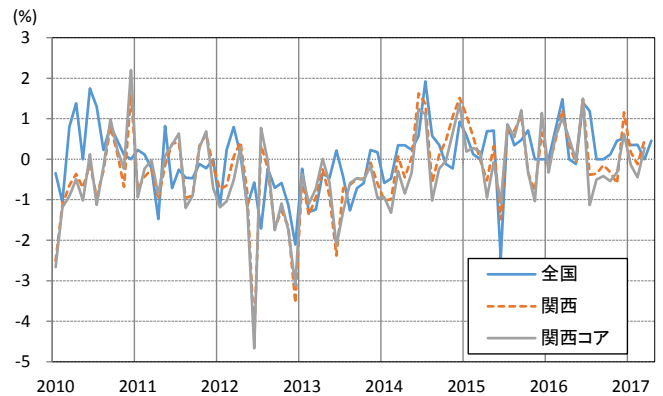
(1) 現金給与総額

3月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は27万5,870円で前年同月比+0.6%となり、2カ月ぶりの増加。府県別では、奈良県と兵庫県が同+2.9%(それぞれ4カ月連続、6カ月連続)、和歌山県が同+2.2%(2カ月連続)、京都府が同+0.7%(2カ月連続)、滋賀県が同+0.6%(4カ月連続)で増加した。一方、大阪府は同-0.7%と9カ月連続で減少が続いている。また、3月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同+0.5%増加し、3カ月ぶりの改善となったものの、今後賃金が増加していくかについては注視が必要である。

全国(確報値)の現金給与総額をみると、4月は前年同月比+0.5%増加し、2カ月ぶりの改善であった。内訳をみると、所定内給与は同+0.4%と2カ月ぶりのプラス。所定外給与は同-0.2%と2カ月連続のマイナス。特別給与は同+3.7%と3カ月連続のプラスであった。

また、現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は前年同月比横ばいであった。賃金の伸びは依然として低調である。

現金給与総額(前年同月比、2017年4月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

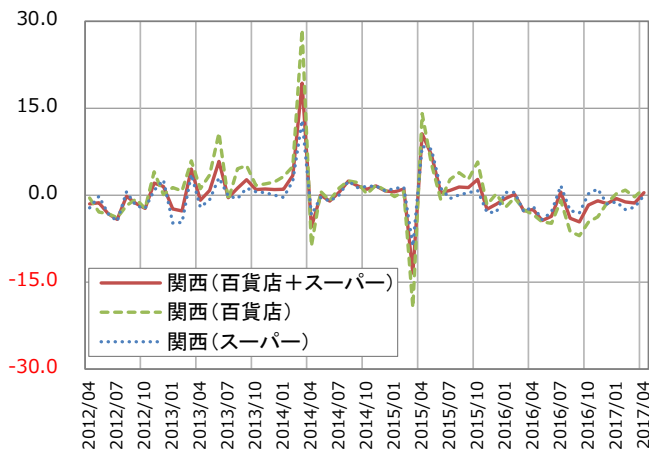
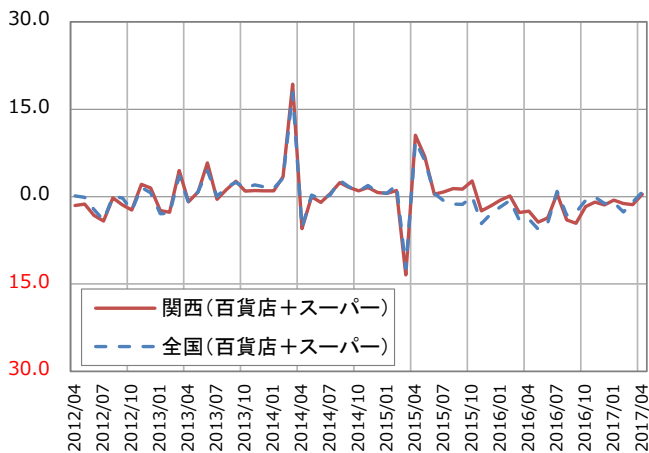
(2) 大型小売店販売額

関西4月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,044億円となり、前年同月比+0.4%と9カ月ぶりのプラス。百貨店は同+1.2%上昇し、2カ月ぶりのプラス。スーパーは同-0.0%と5カ月連続のマイナス。4月の百貨店・スーパーの販売額は、気温が低めで春物衣料が不調であったが、訪日外国人に対する化粧品等の販売が好調であったため前年比で上昇した。

全国4月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,583億円と、前年同月比+0.8%と9カ月ぶりの上昇であった。なお、百貨店は同-0.4%と14カ月連続のマイナス。スーパーは同+1.3%と5カ月ぶりのプラス。経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月から据え置いた。

なお、百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、4月は前年同月比+40.3%(前月+46.4%)と5カ月連続で二桁の伸びを示しており、インバウンド需要が依然として大きい。

大型小売店販売額(前年同月比：%、2017年4月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(3) 新設住宅着工の動向

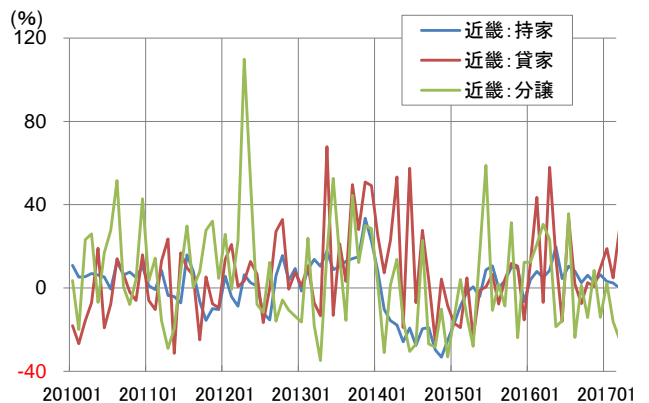
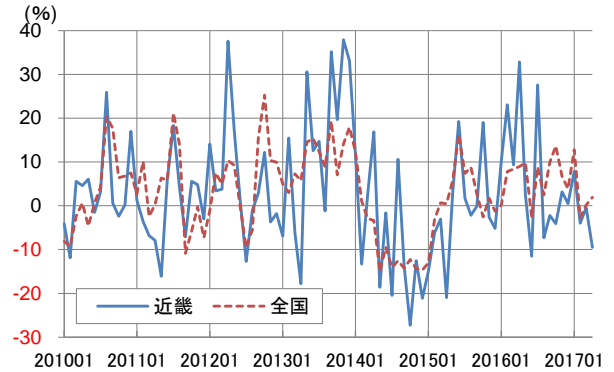
関西 4 月の新設住宅着工戸数は 11,812 戸と前年同月比 -9.5%となり、3 カ月連続の減少。全国は 83,979 戸と同 +1.9%増加し、2 カ月連続のプラスとなった。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は2,783 戸で前年同月比-3.5%と 2 カ月連続のマイナス。分譲は 3,556 戸と同-13.0%減少し、3 カ月連続のマイナス。一方、貸家は 5,391 戸で同-11.2%減少した。7 カ月ぶりのマイナスであった。

5 月の関西のマンション契約率は 76.4%(季節調整値：APIR 推計)。好不調の目安となる 70%を 8 カ月連続で維持しているが、前月比大幅に低下。一方、首都圏は 79.3%(季節調整値：APIR 推計)と 2 カ月連続で改善した。不動産各社

が 100 戸以上の大型物件などの供給戸数を絞る中、契約率が押し上げられた。

新設住宅着工戸数(前年同月比：2017年4月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

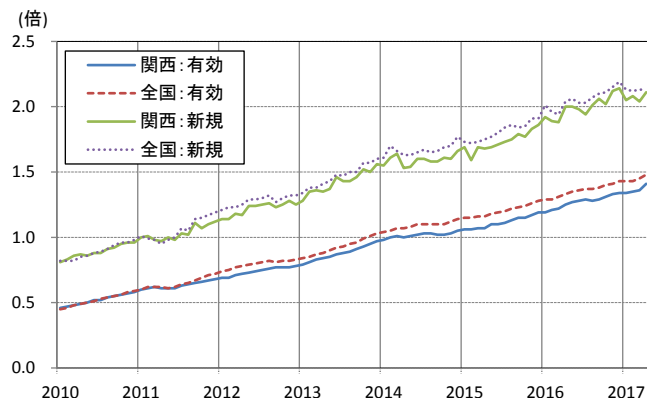
(1) 求人倍率の動向

4 月の関西の有効求人倍率は、1.41 倍で前月比+0.05 ポイント上昇し、3 カ月連続の改善。1974 年 6 月の 1.52 倍に次ぎ、42年10カ月ぶりの高水準であった。内訳をみると、有効求職者数が同-1.7%と減少しており、全体が押し上げられている。また、同月の全国は 1.48 倍で同+0.03 ポイント上昇し、2 カ月連続の改善。バブル期の高水準を超え、1974 年 2 月(1.53 倍)以来の高さとなった。

有効求人倍率を府県別にみると、全ての府県で上昇がみられた。大阪府で前月比+0.05 ポイント、京都府・和歌山県で同+0.04 ポイント、滋賀県・兵庫県・奈良県で同+0.03 ポイント上昇した。

また、4月の関西の新規求人倍率は、2.11倍で前月比+0.07ポイントと2カ月ぶりの上昇。新規求人数が同+2.7%増加したことによるもので、企業の求人意欲は高い。また、4月の全国は2.13倍で前月から横ばいであった。

求人倍率の推移(季節調整値、2017年4月まで)



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2017年3-4月)

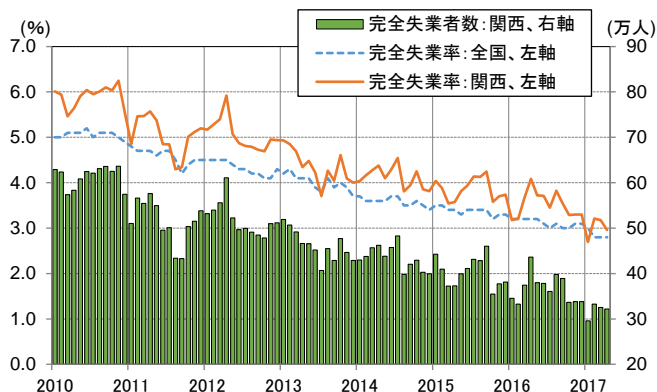
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
4月	1.48	1.41	1.23	1.49	1.52	1.26	1.24	1.25
3月	1.45	1.36	1.20	1.45	1.47	1.23	1.21	1.21

(2) 完全失業率の推移

4月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は3.0%と前月比-0.2%ポイント低下し、3カ月ぶりの改善。内訳をみると、労働力人口の増加とともに、就業者数も増加していることから、雇用環境は引き続き好調である。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は32.2万人で前月から-0.3万人減少し、2カ月連続の改善であった。

完全失業率の推移(季節調整値、2017年4月まで)



(出所)総務省「労働力調査」

全国の完全失業率(季節調整値)は2.8%と、2カ月連続で前月から横ばいとなっており、低水準の状態が続いていることから、雇用情勢は堅調である。

全国の完全失業者数(季節調整値)は186万人で前月から+2万人増加した。理由別にみると、「自発的な離職(自己都合)」が同+3万人増加し、「非自発的な離職」は同+1万人増加していた。

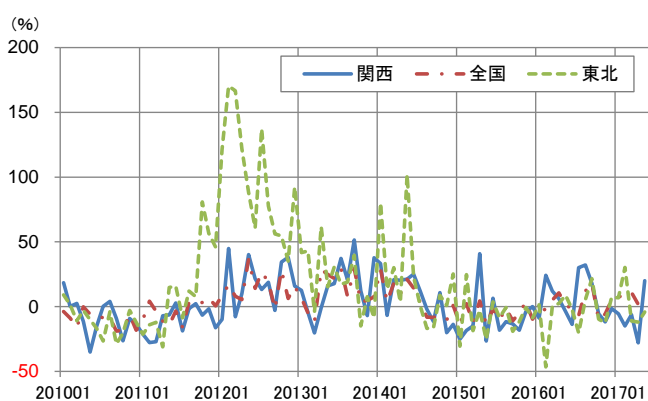
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西5月の公共工事請負金額は1,473億円で前年同月比+20.0%と8カ月ぶりのプラス。全国は1兆2,421億円で同+8.5%と6カ月連続の増加。東北は2,183億円で同-4.1%と3カ月連続のマイナス。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は前月比-9.3%となり、4カ月ぶりのマイナス。全国も同-8.4%と7カ月ぶりのマイナスとなった。4-5月平均を1-3月平均と比較すると、関西は+24.0%、全国は+5.4%ともに増加しており、補正予算の効果は着実に出ていているとみられる。

公共工事請負金額(前年同月比、2017年5月まで)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

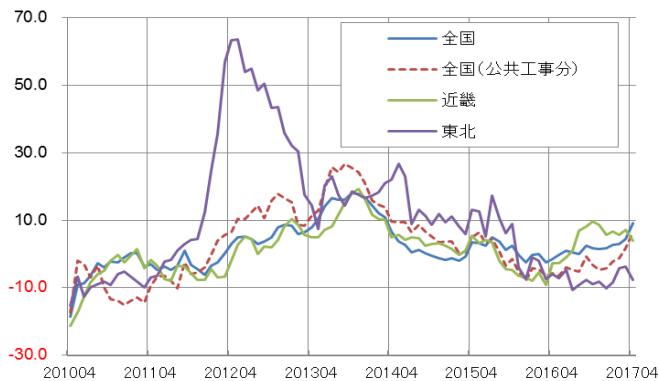
(2) 建設工事

関西4月の建設工事出来高は4,709億円となり、前年同月比+3.9%と10カ月連続の増加。東北については4,425億円となり、同-7.8%と18カ月連続の減少。

全国4月の建設工事出来高は3兆9,023億円となり、前年同月比+9.1%と11カ月連続の増加。うち、公共工事は1兆4,506億円で同+6.4%と、2カ月連続の前年比プラスとなった。関西の建設工事は、全国と同様堅調な動きが続いている

なお、2016年4月分より出来高は参考値を採用している。

建設工事(前年同月比: %, 2017年4月まで)



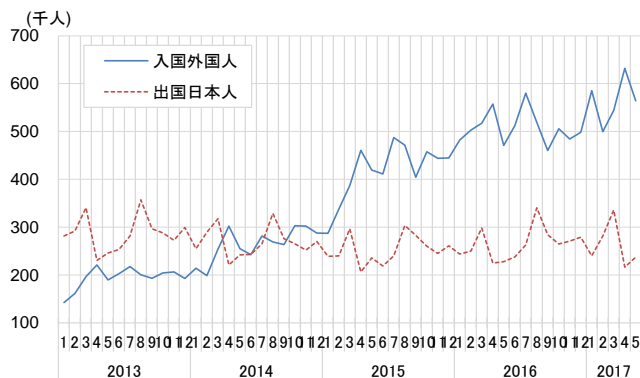
(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。
(出所)国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

5月の関空への訪日外客数は56万4,070人となり、前年同月比+19.8%と3カ連続で増加した。また、出外国人数は55万9,600人と同+4.2%増加しており、外国人旅客総合数(出入国合計)は112万3,670人と同+19.6%増加した。

訪日外客数と出国日本人数(2017年5月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

また、出国日本人数は23万7,430人で、前年同月比+4.2%と2カ月ぶりに増加した。訪日外客数は引き続き上昇トレンドが見られるが、出国日本人数はほぼ横ばいとなっている。

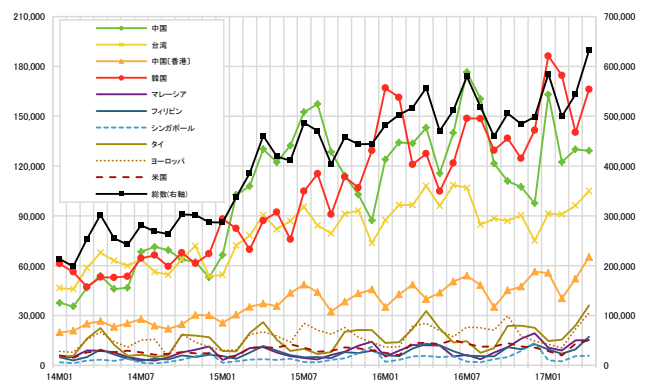
(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、4月は韓国からの入国者数が16万6,161人と最も多く、前年同月比+30.4%と34カ月連続のプラスとなった。次いで、中国(香港除く)が12万9,227人と3カ月連続のマイナス(同-9.7%)。台湾が10万4,983人と、3カ月連続のマイナス(同-2.9%)。また、中国(香港)が6万5,262人(同+63.3%)であった。韓国線と香港線の増便により、利用者数が増加している。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが3万6,101人(前年同月比+10.4%)、フィリピンが17,296人(同+33.1%)、マレーシアが15,252人(同+26.4%)、シンガポールが5,855人(同+2.2%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパが3万1,608人(前年同月比+24.6%)、米国が15,129人(同+11.5%)であった。

地域別訪日外客数(2017年4月: 人、右軸: 総数、左軸: 各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

【中国景気モニター】

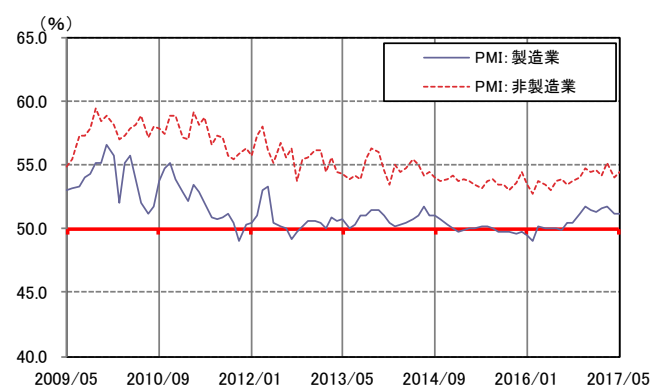
(1) センチメント

5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は51.2となり、前月と同じ水準である。また、非製造業購買担当者景況指数は

54.5 となり、前月より+0.5 ポイント上昇した。2カ月ぶりの改善。

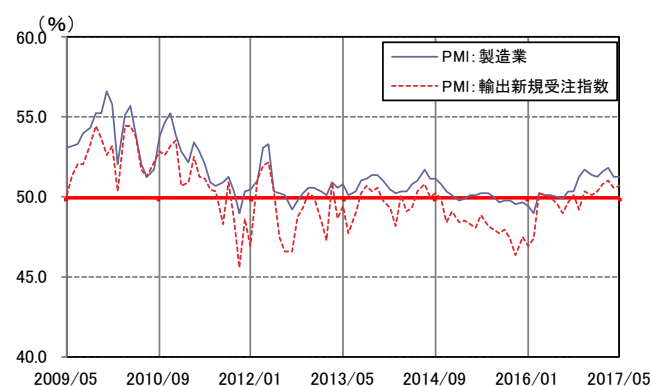
製造業 PMI のうち、生産指数は 53.4 となり、前月比-0.4 ポイント下落。2カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は 50.7 となり、同+0.1 ポイント上昇。2カ月ぶりの改善。雇用指数は 49.4 となり、同+0.2 ポイント上昇。2カ月ぶりの改善。

中国非製造業購買担当者景況指数(2017年5月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

中国製造業購買担当者景況指数(2017年5月まで)



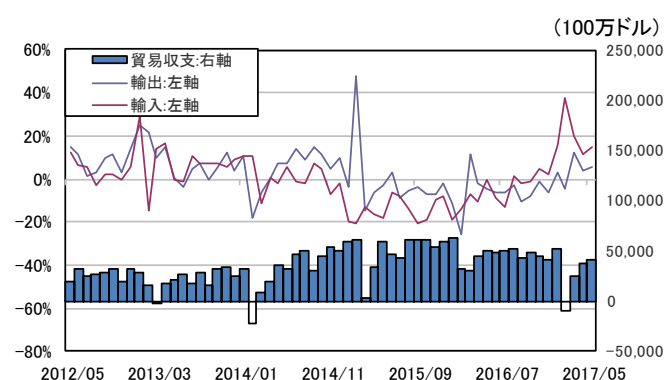
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

5月の貿易収支は+408.1億ドルと3カ月連続の黒字だが、黒字幅は前年同月より91.7億ドル縮小した。なお、収支幅は10カ月連続で縮小している。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は1,910.3億ドルとなり、前年同月から+5.5%増加し、3カ月連続のプラス。輸入額は1,502.2億ドルとなり、同+14.6%増加し、7カ月連続のプラスとなった。

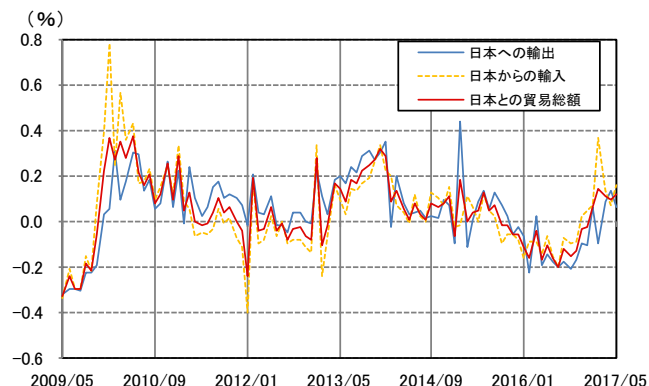
うち、対日貿易収支は-20.2億ドルとなり、4カ月連続の赤字。対日輸出額は107.8億ドルとなり、前年同月比+3.7%と3カ月連続のプラス。一方、対日輸入額は128.0億ドルとなり、同+13.1%と10カ月連続のプラス。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+6.6%と、3カ月連続のプラス。対日輸入額は同+16.3%と、7カ月連続のプラスであった。

中国の貿易動向(前年同月比:ドル・ベース)(2017年5月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(前年同月比:円ベース)(2017年5月まで)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

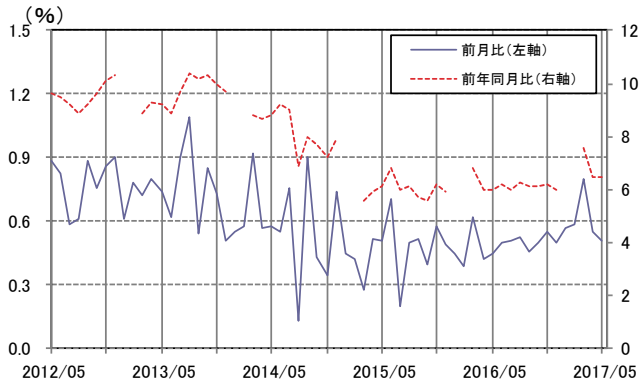
(3) 工業生産

5月の工業生産は前月比+0.51%となり、前月から-0.04%ポイント下落した。また、前年同月比では+6.5%となり、前月と同じ水準である。

産業別に見ると、通用設備製造業(+11.5%)、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+11.1%)、専用設備製造業(+11.1%)、などが高い伸びを示す一方で、有色金属圧延加工工業(同+2.2%)、化学原料・化学製品製造業(同+2.8%)な

どは比較的低調な伸びにとどまった。なお、鉄鋼などの精錬・圧延加工業(同-1.9%)は減産となった。

工業生産指数(2017年5月まで)



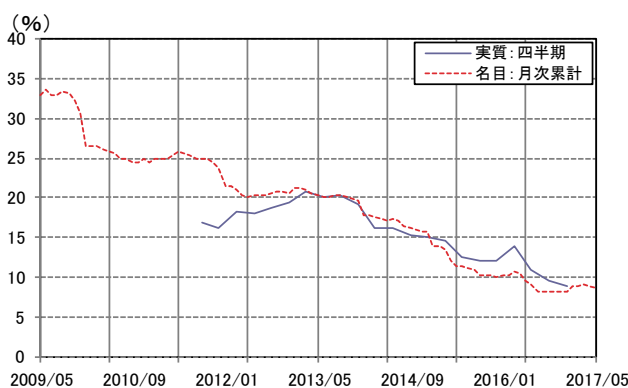
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-5 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+8.6%となり、伸びは1-4 月期より-0.3%ポイント下落し、2 カ月連続の減速。

産業別に見ると、第 1 次産業は前年同月比+16.9%、伸びは前月より-2.2%ポイント下落。第 2 次産業は同+3.6%となり、前月から+0.1%ポイント上昇。第 3 次産業は同+11.6%となり、伸びは前月から-0.5%ポイント下落した。

固定資産投資(2017年5月まで)(累積伸び率)

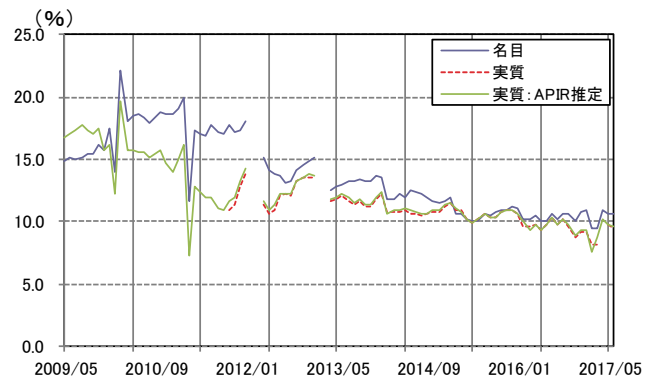


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

5 月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.7%となり、前月と同じ伸びとなった。

社会消費品小売総額成長率の推移(2017年5月まで)



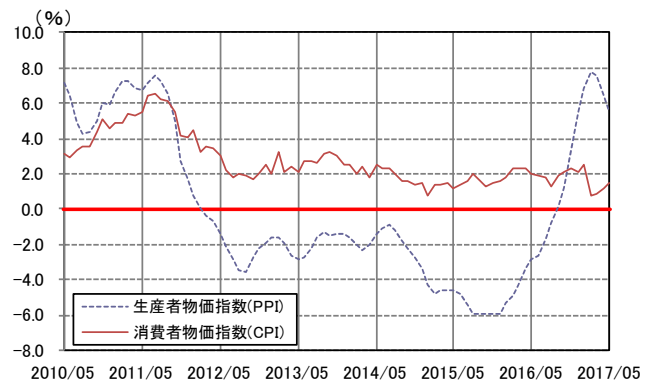
(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

5 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.5%上昇し、伸びは前月から+0.3%ポイントと 3 カ月連続で加速した。一方、生産者物価指数(PPI)は同+5.5%となり、前月より-0.9%ポイントと 3 カ月連続で減速した。

消費者物価指数と生産者物価指数の推移(2017年5月まで)

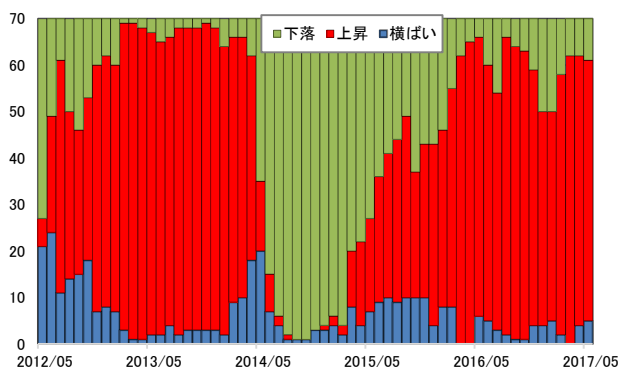


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

5 月の不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要 70 都市のうち、56 都市で上昇がみられた。前月と比較すると、上昇した都市数が 2 都市減少している。一方、9 都市で前月から下落、5 都市で前月から横ばいであった。

新築住宅価格の主要都市集計(2017年5月まで:都市数)

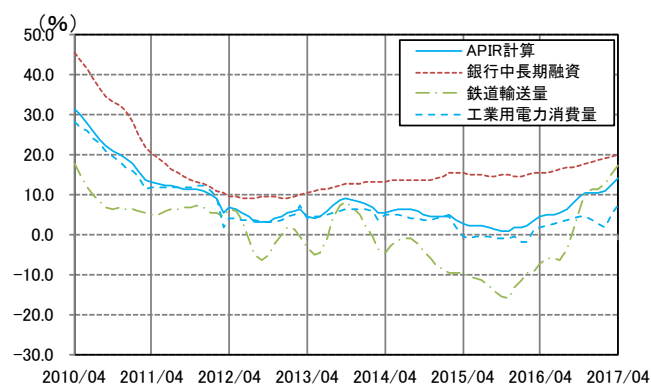


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) リコノミクス指数

4月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+14.2%と前月から+1.3%ポイント上昇し、3カ月連続のプラスとなった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+19.9%となり、伸びは前月から+0.3%ポイント小幅上昇し、16カ月連続で加速している。鉄道輸送量は同+17.3%となり、伸びは前月から+1.8%ポイント上昇し、3カ月連続の加速。工業用電力消費量は同+7.3%となり、伸びは前月から+1.8%ポイント上昇し、2カ月連続で加速した。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2017年4月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・James Brady・Cao Thi Khanh Nguyet・
生田祐介

Tel. 06-6485-7694,

E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for May/Jun

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
29-May 近畿鉱工業生産指数 (3月確報) 商業動態調査 (4月:速報値) 近畿鉱工業生産指数 (3月確報)	30-May 商業動態調査 (4月:速報値) 全国貿易統計 (4月:確速)	31-May 求人倍率(4月) 完全失業率(4月) 新設住宅着工(4月) 全国鉱工業生産指数 (4月:速報値) 中国製造業 PMI (6月)	1-Jun	2-Jun 消費動向調査(5月)
5-Jun	6-Jun 毎月勤労統計 (4月:速報値)	7-Jun	8-Jun 景気ウォッチャー調査 (5月) 中国輸出入 (5月:速報値)	9-Jun 近畿貿易統計 (3月確報) 近畿貿易統計 (4月確速) 近畿鉱工業生産指数 (4月速報)
12-Jun	13-Jun 商業動態調査 (4月:確報値)	14-Jun 全国鉱工業生産指数 (4月:確報値) 公共工事前払保証額 統計(5月) 中国固定資産投資 (5月) 中国工業生産(5月) 中国消費小売総額 (5月) 中国不動産市場 (5月)	15-Jun マンション契約率 (5月)	16-Jun 建設総合統計(4月)
19-Jun 全国貿易統計 (5月:速報) 近畿貿易統計 (5月速報)	20-Jun 出入国者数(4月)	21-Jun	22-Jun	23-Jun 毎月勤労統計 (4月:確報値) 中国輸出入 (5月:確定値)
26-Jun 出入国管理統計(4月) 近畿鉱工業生産指数 (4月確報)	27-Jun	28-Jun	29-Jun 商業動態調査 (5月:速報値) 全国貿易統計 (5月:確速)	30-Jun 求人倍率(5月) 完全失業率(5月) 全国鉱工業生産指数 (5月:速報値) 新設住宅着工(5月)